



令和 5 年度 秋田県生涯学習・社会教育研究大会 実施レポート

令和 5 年 11 月 10 日 (金)、秋田県生涯学習センターを会場に、令和 5 年度秋田県生涯学習・社会教育研究大会が開催されました。県・市町村の生涯学習・社会教育主管課職員、公民館・市民センター等の社会教育関係施設職員、社会教育委員、公民館運営審議会委員、生涯学習奨励員、家庭教育支援関係者、学校教育関係者、社会教育士、社会教育主事有資格者等 90 名が参加しました。全体テーマは次のとおりです。

人づくり・つながりづくり・地域づくりの好循環を目指して ～ゆるやかなネットワークによる社会教育の充実～

午前は、北海道北広島市教育委員会教育部長 吉田 智樹 氏から「北広島市の社会教育行政と地域づくりマネジメント」と題して講演をいただきました。

吉田氏は冒頭、北広島市の概要を話され、続いて社会教育・生涯学習を推進することがソーシャルキャピタルの向上 (=コミュニティの活性化) やウェルビーイングの達成 (=自己実現) に繋がり、それらを通じた人づくりこそがまちづくりに繋がると、市の社会教育推進の基本的な考え方を説明されました。その考えに基づいて導入を進めた、『市民が自分たちで考え、自分たちで展開できるしくみづくりとしての「生涯学習振興会」』について言及され、その取組を通じて、地域の中で「地域 (自己) 肯定感」と「地域 (自己) 有用感」の高まりが見られ、「地域づくりの要」としての組織に発展したと話されました。また、その中で、社会教育委員が講師として講座を実施する「シャベルきたひろしま」についても言及があり、参加者に大きな示唆を与えました。

最後に、「ともに働く関係」(足し算) から「ともに創り上げていく関係」(掛け算) に進んでいくことを「協働」とした上で、「協働」を基本にしたまちづくりを行い、市民のまちに対する愛着心の醸成や地域の資源・魅力の再発見・再認識を通じて「地域への誇りと愛着」の向上を図ることの重要性を説きました。



午後は、当センターの実践研究発表が行われました。実践研究発表は次の 2 つです。

- (1) 地域課題解決に向けた「熟議」の活用 ～秋田市白熊町内会・白熊未来会議との連携・協働～
- (2) 学校教育と社会教育のつながりづくり ～「障害者の生涯学習」の取組～

(1) は、秋田市河辺の白熊地区の町内会長から依頼を受け、地域の課題解決を目指す「白熊未来会議」の話合いに、県生涯学習センターが提案する「熟議」という参加型学習の手法を採り入れた取組について、県生涯学習センター 社会教育主事 佐藤 隆道 が発表しました。自由な意見交流を続けていく中で、センター職員の関わりは当初 1 回の予定でしたが 3 回まで行われ、参加者が「今の良い白熊を次代につなぐ」という目的意識を共有した上で「継続的にみんなのできるイベントの創出」という方向性が示され、自由闊達な議論の有効性が明確になりました。

(2) では、障害者の生涯学習について、県生涯学習センター 社会教育主事 佐々木 克巳 が発表しました。学校教育と社会教育のつながりをつくる方法として、①学校教育が社会教育へアプローチする方法と、②生涯学習センターが学校教育と社会教育を橋渡しする方法の 2 つを挙げ、前者の例として「秋田きらり支援学校青年学級」の取組を、後者の例として大曲支援学校せんぼく校の青年学級「せんぼく桜スクール」を紹介しました。そして、このような取組を行う上で一番大切なことは、「目標共有」であること、その上でまわりをよく見て、今あるものを利用し、まず一歩踏み出すことであると訴えました。



調査研究事業では障害者の生涯学習に取り組んでいます

当センターでは、本県生涯学習・社会教育の推進を図るため、現代的課題の解決につなげる調査研究事業を行っています。令和元年度からは「障害者の生涯学習」をテーマに取り組を進めてきました。市町村及び市町村教育委員会主管課、特別支援学校、あきた With（※）等の民間企業と連携・協働し、地域における学習機会（講座等）の創出に取り組んでいます。様々な取組の中から、今年度取り組んだ2事例について紹介します。

※あきた With:秋田県生涯学習センターの学習活動の趣旨に賛同した県内企業で構成された非営利任意団体

アルクベ・イウベ・キクベ in 銀座ストリート（12月2日）

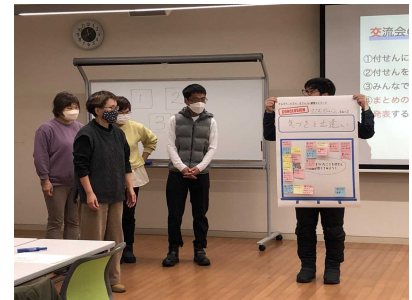
北秋田市鷹巣銀座商店街において、車いす利用者の視点で「街歩き」を行いました。車いすに乗って、「車いすでトイレに入る」「自動販売機で買い物をする」「信号のある横断歩道を渡る」「お店で買い物をする」など9つのミッションが書かれたカードを手に街へ出かけ、グループのメンバー全員で協力しながらミッションクリアを目指しました。体験後の話し合いでは、街の中には、車いすユーザーから見ると不便な場所や危険が多いことや、出会った人々の優しさに気付いたことなど、普段とは違った視点から見た意見がたくさん紹介され、いろいろな人にとって優しい街について考えを深めることができました。



車いすでトイレに入って座ってみるミッション



車いすに乗っての街歩き



グループでの話し合いの内容を全体で共有

第4回あきた With 杯ポッチャ交流大会（12月17日）

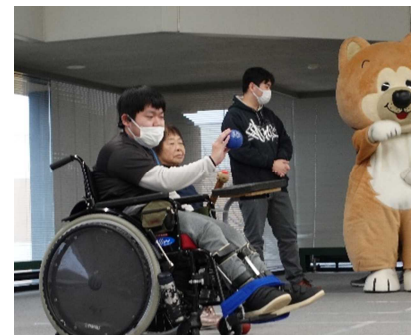
障害の有無にかかわらず、誰もが楽しむことができる「ポッチャ」で交流を深めるイベントを実施しました。あきた With の共催によるこの大会は4回目を迎え、過去最高の16チーム、76名が参加しました。ジャックボールと呼ばれる白いボールに自分のチームのボールをできるだけ近づけることを競うこの競技は、シンプルでありながら奥が深く、選手の皆さんは大いに楽しんでいました。時には真剣に作戦を話し合う場面も見られ、好プレイに対しては、選手・観客から大きな声援や拍手が送られるなど、全員が交流を楽しんだ様子でした。



笑顔いっぱいの参加者の皆さん



ランプという道具を使っての投球！



技術と作戦がぶつかり合った白熱の決勝戦！